

# 指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイントについて

～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

本年度も、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（小学校21名、中学校10名）へのインタビューを行った。質問事項としては、主に『①**児童生徒の学力を伸ばすために意識していることは何か**』と『②**支援を必要としている児童生徒への対応について**』である。以下は、インタビューの内容をまとめた、エビデンスに基づく、**効果的な指導方法（グッドプラクティス）**である。

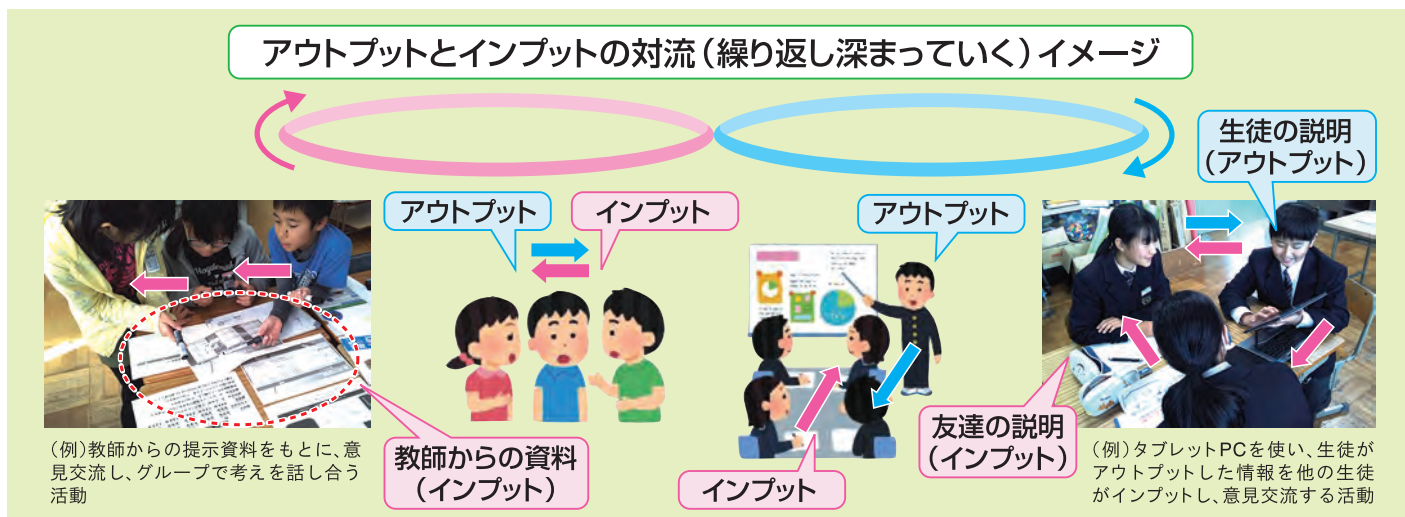
## ◆児童生徒の学力の伸ばし方～エビデンスに基づくグッドプラクティス～

### 1 Output(アウトプット)とInput(インプット)の対流が生まれる授業づくり

主にルーブリック  
2～4に関わって

#### 授業の目標に近づくアウトプットを誘発するインプット

- ・期待するアウトプット（目標に近づく学びの姿）を見通し、**意図的・計画的な教材・資料**を提示する。
- ・**絵や図、表などからインプット**することが得意な児童生徒もいれば、**言葉（文章）からインプット**することが得意な児童生徒もいる（両方必要な児童生徒もいる）。**インプットしやすい特性**が違うので、個々の学習状況を教師は丁寧に把握していく。
- ・漠然と「何で?」「理由は?」と投げかけるだけではなく、**何をどのように考えればよいかを焦点化**し、児童生徒たち同士の「**インプットとアウトプットの対流**」をコーディネートする。



#### アウトプットの焦点化①～思考を可視化させる発問～

アウトプットの目的	アウトプットさせるための教師の発問(例)	アウトプットされた児童生徒の考え
<b>手段・方法</b> を問う (HOW)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにして、～すればよいか説明しましょう。</li> <li>・どんな方法を使って調べればよいか、絵や図で説明しましょう。</li> </ul>	(例)～を用いて、…する。
<b>理由</b> を問う (WHY)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして～なのか、説明しましょう。</li> <li>・～のように考えた（書いた）理由を書きましょう。</li> </ul>	(例)～だから、…である。

#### アウトプットの焦点化②～「考えるための技法」の指導～

技法(例)	主な思考ツール	声かけの例
<b>比較する</b>	●マトリクス ●座標軸	～と…を比べると… ～の同じ(異なる)所は
<b>分類する</b>	●ベン図 ●くま手チャート	同じ仲間に分けましょう。(まとめると…)
<b>関連付ける</b>	●イメージマップ ●クラゲチャート	今までに習ったことと同じところは…

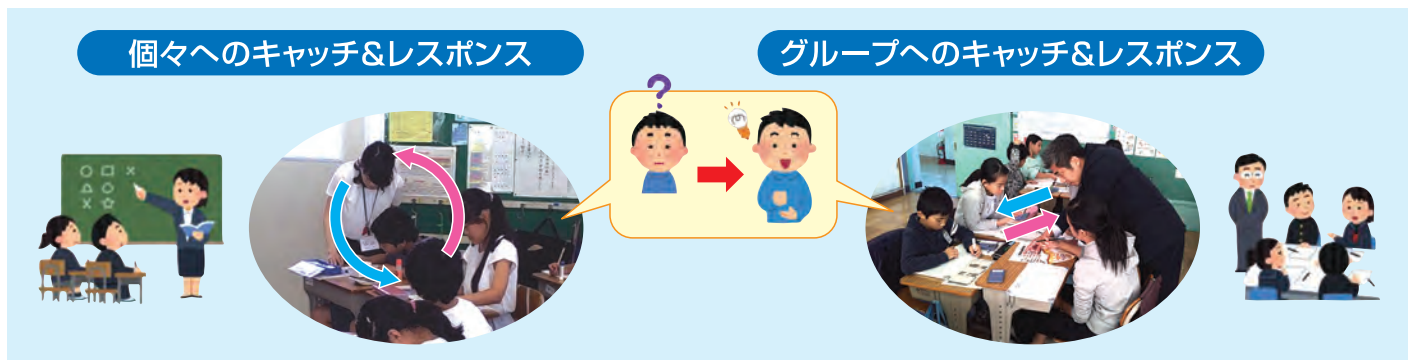
※考えるための方法：小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間(p 84、85)参照

## 2 Catch(キャッチ)& Response(レスポンス)による授業づくり

主にルーブリック  
1&5に関わって

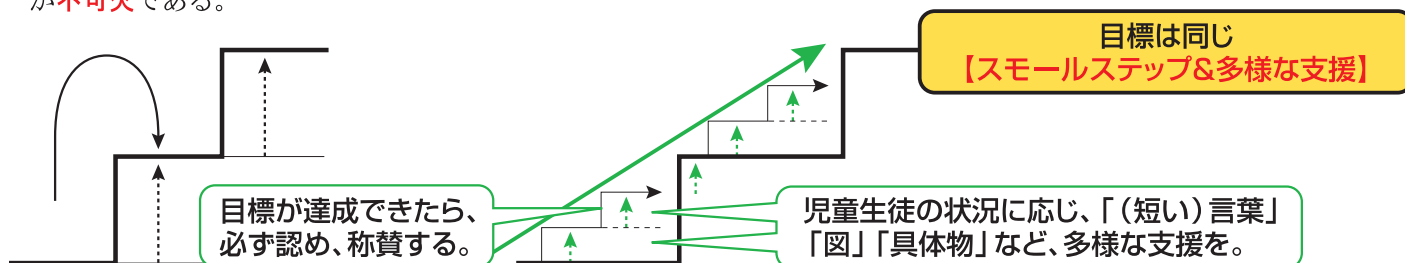
### Catch(キャッチ)& Response(レスポンス)による指導と評価の一体化

- ・目標に即し、子供たちの学習状況を捉え（**キャッチ**）、個々・グループ等への机間指導における声かけ（**レスポンス**）を充実させていく。
- ・目標の達成状況を把握するため、**授業の途中で**学習状況を評価したり、**授業の終末**に評価問題に取り組ませる場面を設定したりする。
- ・**評価内容・方法、タイミングは授業前**に設定する。B規準に達していない児童生徒には、単元を通じて必ず支援していく。（一人一人に寄り添った指導）



## 3 実態に応じたきめ細かな授業づくり【スモールステップ&多様な支援】

- ・児童生徒たちの学力を特に伸ばした**教師**は、支援が必要な子供たちに対して、事前に**ニーズに合った支援を準備**したり、必要に応じて**個に応じて支援**したりしていく。
- ・一人一人の学力を伸ばしていくためには、現状の学力や学習の状況を受け止め、**その子に寄り添い**指導していくことが**不可欠**である。



- ・【**柔軟な対応**】…個々の学力の実態、学習状況等に応じて、**課題を変えたり、支援方法を変えたり**しながら、全員が**目標を達成**できるよう導く。
- ・【**視覚化**】…教師の口頭のみでの説明だけでは理解するのが難しい児童生徒もいるため、大切なことは、「**口頭**」+「**板書**」で説明していく。また、文字だけでは理解しづらい子がいる場合には、**絵や図**（ときには**具体物**）なども取り入れて説明するよう心掛ける。

## 4 非認知能力の育成

- ・各学校の非認知能力育成プログラムに基づいて、一人一人が安心して学ぶことができるクラスづくりを日々心掛ける。
- プロセス(過程)を称賛**  
できたところやできるようになったところを先に伝え、**それまでの過程を褒め、自己有用感の向上**につなげていく。  
できないことがあることは当たり前であるという考えの下、課題克服のための方法を一緒に考えていく。
- 努力している過程の可視化**  
〇〇カードや学習シールなどを使って、目標達成までの過程を視覚化し、**どのくらい努力をすれば、自分はどのくらいのことが達成できるのか**自分の力を知ることにつなげていく。